



金屋町通信

発行元：

金屋町まちづくり協議会

発行責任者：般若陽子

編集責任者：般若慎一郎

上の写真は、鋳物資料館で飛見丈繁展において紹介しましたが、有磯神社前に「やがえふ」の石碑が建っています。昭和七年、本業は医師であり、県会議員も務めながら、業界から頼まれて高岡双型銅器組合長まで務めていた時に飛見丈繁さんが建立したものです。

商工会議所から表彰

加藤自治会長&伊東教授

金屋町の開町400年記念事業が金屋町のみならず高岡市のまちづくりに貢献したと評価され、10月31日に加藤自治会長が高岡商工会議所から表彰されました。高岡市における金屋町の存在が、それほど重要な位置づけになってきているということでしょう。



ちなみに、金屋町楽市実行委員長の伊東順二教授も、まちづくりに貢献したということで同時に表彰を受けました。

ふいご祭り&恵比須講市

11月8日、有磯正八幡宮において金屋町開町400年記念事業として、ふいご祭りを開催されました。ふいご祭りは今までも同神宮において鋳物業関係者だけで行ってきたそうですが、今回は金屋町自治会も加わり、境内においてふいごと溶解炉を使って実際に銅を溶かして神鏡を鋳込むというイベントを、華々しく行ったものです。

この日に先立って6日にはえびす講市ということで、小物銅器や飲食の販売、お茶席、マジックやバルーンアートのショーなどをおこない、高橋市長や橋衆院議員も参加して餅まき・みかんまきも行われました。

また6～8日に社務所において、名工 米治一の作品展も開催されました。



沢山の観客が見守る中で神鏡作り

金屋町の守るべき文化とは

伊東順二教授の記念講演から

伊東順二さんの講演をビデオで改めて聴いてみた。そこでは金屋町の歴史に基づいた風土や伝統・文化について、貴重なことなのに住んでいる住民が気づかない、あるいは見過ごしてしまいようなことを指摘している。そんな部分を抽出して、以下に書き出してみました。

金屋町はふるさと

4年前から金屋町楽市を実施しているが、金屋町と出会ったのは6年前でした。6年前に長崎県美術館を創設し館長を務めていた時に、富山大学で芸術文化学部を作り文化マネジメントコースというものを日本で初めて立ち上げるということで招かれ教授に就任し、長崎と高岡を往復しながらその立ち上げに関わった。その時に金屋町と出会った。

金屋町を訪れその姿を目の当たりにして思ったのは、まさにふるさとということだった。町並み

だけでなく、そこに住んでいる人達の生活や、先祖への尊敬や土地に対する愛情などを見て、今衰退して高岡もその渦中にある日本の伝統工芸産業が何故衰退しているのか、衰退を脱却するために何が必要なのかということ、改めて考えさせる場所ではないかと思った。

当時、私が訪れた1軒のお宅は今は小泉邸として美しく再生しているが、中は既にぼろぼろになって、取り壊されるかどうかという状況だった。その時非常に痛切に、自分が訪れている町だけではなく、日本の伝統というものが今直面している現実を目の当たりにした。



日本人が忘れたものが金屋町にある

そこで何故私が金屋町に大変な興味と可能性を見たかということ、まさに金屋町の方々の中にある可能性でした。それは私達が忘れてしまっている、日本の自然とか季節とかに基づいた生活、私達が忘れようとしているものがここにあると思った。つまり伝統産業とか伝統工芸とかいうものを、産業的に再生することばかりを考えていたが、産業がなぜ存在するかということに考えが及ばなかった。私達の本来の基盤は何だったのかということ、忘れてしまっていることを、改めて考えさせられた。

そこにあるのは町並みと生活の調和であり、文化が根付いていて、住民がその文化の保護者であり、文化が保護されていることによって日本の伝統産業にとって必要なコンテンツが維持されている。

金屋町楽市は文化再生の金屋モデル

金屋町楽市を通じて私達が発信したいことは、日本の工芸品の素晴らしさと、町並み建築の素晴らしさだけでなく、そこで提案されている文化の基本構造を今思い返さないと、日本という素晴らし

い多様性文化を持つ国が駄目になってしまうということです。文化とは、カルチャーとはどういうものか、それは自分が住む土地に対する崇拝とか自分の先祖や自分達を促したものを尊敬する気持ちです。それが他の土地で途絶えてしまっているものを、金屋町では守り続けてきている。そして楽市のような新しい試みをする土壌を作っている。そういうことを全国へ発信して、文化再生の金屋モデルとして、提供したいと思っている。

~~~~~

## 金屋町開町400年 記念イベント写真展

9月に開町400年記念イベントを実施しましたが、その時の写真を展示します。あわせて昔懐かしい写真を展示します。是非ご覧ください。

場所：鑄物資料館第3展示室、期間：12月11日～1月15日、入場無料

**新保昭一展開催中** 鑄物資料館第3展示室において開催中！12月4日までです。終了前にもう一度、是非ご覧ください。

~~~~~

金屋町開町400年記念シリーズ ⑭ 高岡鑄物がアルミ産業へ発展
金屋町と高岡鑄物の歴史

(本シリーズは今回を最終とします)



高岡市竹平記念体育館

三協アルミ創業者の竹平政太郎、立山アルミ創業者の竹平栄次は共に銅器産業からスタートし、銅器作りの技術を基礎にアルミ産業へ転換して、大きく発展させました。今や富山県は全国屈指のアルミ製品産地となっています。

竹平政太郎は金屋上町に、竹平栄次は昭和町に長らく居住し、後に美幸町へ転居しました。